



●透析室スタッフの皆さん

●PD担当医師/矢内佑子先生



●新館の透析室



●昨年7月に開設したコメディカル外来(看護専門外来)



●PD担当看護師/楠元恵さん



●病棟スタッフの皆さん



●PD外来には、皮下トンネル部観察に用いるエコーも設置

代替療法と療法選択について、具体的なお話をしていきます。どの回も、質疑応答の時間もたっぷりありますので、ふだん聞けないことも皆さん熱心に質問してくださいませ。」

●「こちらには「看護専門外来」があるのですが、どんな外来ですか。楠元さん「昨年7月に誕生した「看護専門外来」では、専門的な知識と技術を持った看護師が、直接患者さんと面談しています。私も立ち上げから携わり、現在、腹膜透析外来において、患者さんとご家族がセルフケアに対する自信を持って

「看護専門外来」を立ち上げ
セルフケアの向上を支援

次に、PD担当の副看護部長の楠元恵さんにお話を伺いました。

●「こちらには「看護専門外来」があるのですが、どんな外来ですか。楠元さん「昨年7月に誕生した「看護専門外来」では、専門的な知識と技術を持った看護師が、直接患者さんと面談しています。私も立ち上げから携わり、現在、腹膜透析外来において、患者さんとご家族がセルフケアに対する自信を持って

●PD患者さんにメッセージを一言お願いします。
矢内先生「PDでは、患者さんがひとりでは抱え込むのではなく、看護師や医師に相談して解決していくことが大切だと思います。当院でも、看護師との外来面談の時間をしっかりと確保した上で、医師である私も30分以上かけて診察しています。どんな小さなことでも相談してくださいね。」

●それは画期的な観察方法ですね！
矢内先生「患者さんが、あまり神経質になつてしまうと、PDのメリットでもある柔軟性を活かさないの、私たちが柔軟に対応していきたいと考えています。」

●PDの利点はなんでしょう。また、どんな方に向いていますか。
矢内先生「PDは、自宅でできる治療で生活を大きく変える必要が少ないのが利点で、仕事を続けたい、社会復帰を伺いました。」

●医師と看護師それぞれがしっかりと時間をかけて対応
次に、PD担当医師の矢内佑子先生にお話を伺いました。

●全国のPD患者さんへメッセージをお願いします。
家原先生「私たち医師にとっては、患者さんに信頼して頂いて、お互いに信頼関係を築けた時に幸せを感じます。私たちが日々進歩していきますので、お任せください。」

●どうすれば腎臓病教室に参加できるのですか。
家原先生「当院の腎臓病教室は、地域にオープンな教室ですので、当院受診中でなくても、かかりつけの先生にご相談の上、ご参加ください。特に予約も必要ありませんので、気軽に overshikudaisai。」

●PDを長く続けるために、何に注意すれば良いでしょうか。
矢内先生「しっかりと基本通りに手技と出口部のケアを行い、腹膜炎など合併症予防をしていただくことですね。どうしても出口部観察では、目で見える範囲になってしまいますので、当院では、エコーを用いて皮下トンネル部の観察を行い、皮下トンネル感染の早期発見ができるように現在、確

帰をしたい方に向けているように思います。腹膜機能によっては透析回数や時間を調節できるので、あまり多くの透析量を必要としない方にも向いていると言えます。また、通院回数が少ないので、近くに透析施設が無いという方や、遠くでも保存期から同じ病院へ通いたいという希望のある方にも適していると思います。実際、当院の患者さんでも、働いている方や、1時間半ほどかけて通院している方がいらっしゃいますよ。

●PD患者さんと接する時に、どんなことを心がけていますか。
楠元さん「当院のPD患者さんは50代の働いている世代が多く、仕事などによって不規則な生活を送られている方もいます。そのような生活の中でも対応できるように、その人に合った柔軟な指導を心がけています。」

●PD患者さんに一言メッセージをお願いします。
楠元さん「PDを始めても、なるべく今までのライフスタイルを維持していけるようにサポートしますので、一緒に頑張りましょう！」

●PD患者さんと接する時に、どんなことを心がけていますか。
楠元さん「当院のPD患者さんは50代の働いている世代が多く、仕事などによって不規則な生活を送られている方もいます。そのような生活の中でも対応できるように、その人に合った柔軟な指導を心がけています。」

●PD患者さんに一言メッセージをお願いします。
楠元さん「PDを始めても、なるべく今までのライフスタイルを維持していけるようにサポートしますので、一緒に頑張りましょう！」

●PDを長く続けるために、何に注意すれば良いでしょうか。
矢内先生「しっかりと基本通りに手技と出口部のケアを行い、腹膜炎など合併症予防をしていただくことですね。どうしても出口部観察では、目で見える範囲になってしまいますので、当院では、エコーを用いて皮下トンネル部の観察を行い、皮下トンネル感染の早期発見ができるように現在、確

●PDを長く続けるために、何に注意すれば良いでしょうか。
矢内先生「しっかりと基本通りに手技と出口部のケアを行い、腹膜炎など合併症予防をしていただくことですね。どうしても出口部観察では、目で見える範囲になってしまいますので、当院では、エコーを用いて皮下トンネル部の観察を行い、皮下トンネル感染の早期発見ができるように現在、確

●PDを長く続けるために、何に注意すれば良いでしょうか。
矢内先生「しっかりと基本通りに手技と出口部のケアを行い、腹膜炎など合併症予防をしていただくことですね。どうしても出口部観察では、目で見える範囲になってしまいますので、当院では、エコーを用いて皮下トンネル部の観察を行い、皮下トンネル感染の早期発見ができるように現在、確

●PDを長く続けるために、何に注意すれば良いでしょうか。
矢内先生「しっかりと基本通りに手技と出口部のケアを行い、腹膜炎など合併症予防をしていただくことですね。どうしても出口部観察では、目で見える範囲になってしまいますので、当院では、エコーを用いて皮下トンネル部の観察を行い、皮下トンネル感染の早期発見ができるように現在、確

●PDを長く続けるために、何に注意すれば良いでしょうか。
矢内先生「しっかりと基本通りに手技と出口部のケアを行い、腹膜炎など合併症予防をしていただくことですね。どうしても出口部観察では、目で見える範囲になってしまいますので、当院では、エコーを用いて皮下トンネル部の観察を行い、皮下トンネル感染の早期発見ができるように現在、確